



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2511 号 2015.6.25 発行

特養内に無料の学習室を開設 同胞援護会でキッズドアが運営

福祉新聞 2015年06月25日 福祉新聞編集部



社会福祉法人恩賜財団「東京都同胞援護会」は6月から、ひとり親家庭の子どもを主な対象にした無料の学習室を特別養護老人ホーム「フジホーム」(昭島市)内に開設した。運営は各地で学習支援の活動をするNPO法人キッズドアに委託。同胞援護会は子どもや障害者、高齢者関連の施設を手広く展開しているため、それぞれ専門性のある職員がいる強みを生かし、必要に応じて学習以外の面で子どもや家庭を支える。

同胞援護会の担当者は「学習支援をきっかけに地域の子どもの成長を広く支援できるよう取り組みたい」と話す。

学習室に通うのは小学4～中学2年生の子ども10人。定員に余裕があるため、夏に再募集も検討している。

学習室初日の7日には、子どもと、学生や社会人の学習ボランティアがオリエンテーションを実施した。「自分を色に例えたら」など会話のきっかけになるような質問が書かれたシートを使って打ち解け合いながら、あだ名や学習の目標を決めていった。

学習ボランティアは経験者がほとんど。子どもの様子を見ながら丁寧に言葉をかけ、始めは硬かった子どもの表情も笑顔になっていった。キッズドアの担当者は「雰囲気がいい」と初回の手応えを語った。

学習室は来年3月まで月に2～3回程度、計24回開く予定。座学だけでなく、大学のキャンパス見学など子どもが自分の将来を広い視野で考えるきっかけづくりの機会も設ける方針だ。

認知症の人を支える ビデオ、寸劇で学習

読売新聞 2015年06月25日



高萩署員も参加して披露された警察対応事例の寸劇(24日、高萩署で)

認知症の人や家族を地域で見守り、支えていく「認知症サポーター」の養成講座が24日、高萩署で開かれた。認知症のお年寄りの保護などに役立てようと、初めて開催し、生活安全課や地域課などの警察官約30人が受講した。

認知症サポーターは、国の認知症支援の一環で始まっ

た。高萩市は2007年から市民向けに養成講座を開催しており、地域住民や高校生ら900人以上がサポーターになっている。

市内のグループホームや市地域包括支援センターの職員が講師を務めた。参加者は「記憶障害」や「理解力・判断力の低下」など認知症の基礎知識を教わり、ビデオや寸劇で認知症の人への接し方を学習。生活安全課の服部宗雄課長は「認知症の特徴や類型など大変参考になった。教えていただいたことを今後の業務にいかしていきたい」と話していた。

松山の病院で書道パフォーマンス 友近890さん、患者ら励ます

産経新聞 2015年6月25日

入院患者らに笑顔を届けようと、愛媛県今治市出身の書道家でミュージシャン、友近890（やっくん）さん（36）が、松山市の松山赤十字病院ロビーでライブを行った。歌いながら揮毫（きごう）する書道パフォーマンスなどを披露し、入院患者らから熱い拍手が送られた。

友近890さんは「燧山（すいざん）」という雅号で書を発表する一方、シンガー・ソングライターとして活動。東日本大震災直後の被災地でチャリティーライブを行ったことがきっかけで「全国に笑顔届けたい」と、これまで老人ホームや障害者施設、保育園など約680カ所を訪問している。

ロビーには多くの入院、通院患者らが詰めかけ、友近890さんの明るい歌声や話しぶりに活気づけられ、流行歌などを合唱。歌いながら、力強く「夢」と揮毫すると、弾けるような拍手がわき起こった。

入院して約1カ月という矢野晴美さん（53）は全身でリズムを取るように見入り、「若返る心地です」と笑顔をみせた。

132人に誤った住民税額を通知 神奈川・海老名市、システムに不備

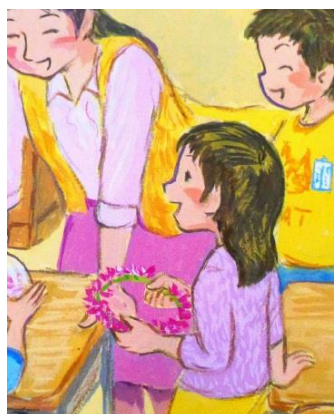
産経新聞 2015年6月24日

神奈川県海老名市は24日、公的年金受給者の平成27年度の住民税額算定に誤りがあり、132人に本来と異なる課税額を通知していたと発表した。システムに不備があったため。76人には計約228万円多く、56人に計約122万円少なく通知していた。

同市によると、課税額を自動計算するソフトに扶養控除の情報が正しく反映されず、扶養者数が実際より少なく表示されたり障害者に関する控除が過大に計上されたりした。通知を受けた年金受給者から19日に問い合わせがあり、発覚した。

女兒に腕3本？教科書イラスト誤り 乙武洋匡さんもツイッターで揶揄

福井新聞 2015年6月24日



下書き部分を残したまま着色したイラストが見つかった三省堂の国語の教科書。花輪を手にした女の子の腕が3本あるように見える

今春から小学校で使われている1年生の国語の教科書に、下書きを消し忘れて着色したイラストが掲載されるミスがあったことが23日、この教科書を発行した三省堂（東京都千代田区）への取材で分かった。三省堂は発行した1万冊弱を、新しいイラストに差し替えた教科書に交換する方針。

三省堂によると、ミスがあったのは小1の国語の上巻。この教科書を使っている東京都世田谷区教育委員会から5月、「イラストの子どもの腕が3本あるように見える」と連絡を受けた。

イラストは複数のポーズで下書きしたが、清書をする際に、

画家が採用されなかったポーズの腕を消し忘れたまま、着色してしまったという。

世田谷区の公立小で使っている約5300冊の回収、交換は既に決まっており、神奈川県座間市や東京都荒川区、国私立の小学校分も順次意向を確認し、交換する。

このニュースに関し、先天性四肢切断の障害を持つ作家の乙武洋匡さんはツイッターで「『腕が0本』のイラストは大丈夫ですかね?」と揶揄している。

三省堂の担当者は「あってはならないことで大変申し訳ない。今後校正を強化したい」と話している。教科書は検定に合格しており、文部科学省も「気付かず残念」としている。

社会的養護がテーマの「タイガーラジオ」 子どもたちに届け

福祉新聞 2015年06月23日 福祉新聞編集部



左から安藤、早川、杉山、森山の各氏

社会的養護をテーマにした全国初のラジオ番組「タイガーラジオ」(FM西東京)が4月から始まっている。パーソナリティーは、児童養護施設出身者の支援をしている安藤哲也・タイガーマスク基金代表理事と、児童養護施設の子どもの学習支援をしている森山誉恵・3keys代表理事。番組はインターネットで聞くこともでき「多くの人に聞いてもらえれば」と意気込んでいる。

取材日は6月28日放送の番組を収録。コメンテーターは早川悟司・子供の家施設長で、ゲストは虐待問題を取材するフリーライターの杉山春さんだった。

番組で、杉山さんは2010年に大阪市内で起きた二児置き去り死事件などについて解説。事件について本を出版した後、子育て中のお母さんからは「自分と重なって、読めない」などの声が届いたという。

「そうした虐待の問題を防ぐには市民一人ひとりが何をすべきなのでしょうか」。安藤さんが問う。

杉山さんは「決してお母さんを責めることはせず、まずはよく頑張っているねと認めてあげてほしい」と語りかけた。

番組では居所不明児童の問題も取り上げた。また、リスナーの声を紹介するコーナーでは、児童養護施設出身の若者が、大学で勉学やバイトに励み、充実した学生生活を送っているという手紙が読み上げられた。

早川さんは「児童養護施設出身者の進学率は上がっていて、支援の充実が欠かせません」

とコメントした。

番組は、もともと同局で父親の子育て支援をテーマに番組を持っていた安藤さんが「もっと社会的養護のことを世間に知ってほしい」と思い、同局に掛け合って実現したという。森山さんは「テーマがテーマなだけに暗くならないように心がけている」と話す。

放送は月1回で、第4日曜の午後2時から1時間放送される。放送後は同局のウェブサイトでも聞ける。

安藤さんは「昨年のテレビドラマ『明日、ママがいない』の影響で、社会的養護というテーマに漂う自粛ムードを払拭したい。ぜひ児童養護施設の職員や、子どもたちにも聞いてもらいたい」と話している。

昨年の匿名通報が最多、9千件超 電話よりサイト、警察庁

西日本新聞 2015年06月25日

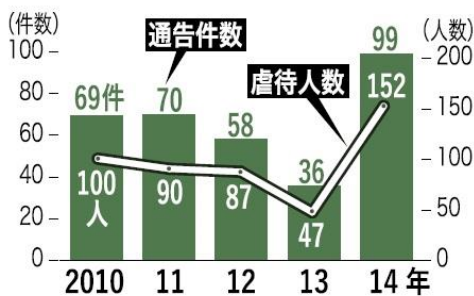
警察庁は25日、民間団体に委託し、電話やインターネットで犯罪や児童虐待などの通報を受け付ける「匿名通報ダイヤル」の昨年度の受理件数は、前年度より576件多い9401件だったと発表した。受け付けを始めた2007年度以降で最多。情報を基にした摘発は11件少ない45件だった。

通報手段別では、電話が707件と112件減ったのに対し、ウェブサイトは8694件で688件増えた。警察庁の担当者は「サイトは声を聞かれずに済むので利用しやすいのでは」と話している。

通報先はフリーダイヤル(0120)924839、サイト<http://www.Tokumei24.jp>

児童虐待通告が過去最多 DV相談件数も 14年県内 琉球新報 2015年6月25日

県警通告の児童虐待数



2014年の1年間に虐待が疑われるとして、県警が県内の児童相談所に通告したケースは99件あり、人数は152人で過去最多だった。一方、県に寄せられた「DV(ドメスティックバイオレンス)」相談件数は14年度は3230件に上り、これも過去最多だった。県の金城武子ども生活福祉部長が24日の県議会本会議で明らかにした。

児童虐待の通告は10年69件(100人)、11年70件(90人)、12年58件(87人)、13年36件(47人)。14年に通告された152人の内訳はネグレクト(育児放棄)65人、身

体的虐待48人、心理的虐待36人、性的虐待3人。

また沖縄はDVの発生も多い。子どもの前で配偶者に暴力を振るうのも子どもへの心理的虐待に当たることからDVと関連する虐待も多いとみられている。

児童相談所は警察以外にも市町村や教育機関などから相談や連絡を受けており、全体の虐待件数はさらに増える。県は年度ごとに児相の対応件数をまとめており、13年度で348件に上っている。

DV相談は県内の福祉保健所にある配偶者暴力相談支援センター(2615件)と県男女共同参画センター(615件)に寄せられたもの。13年度は2926件で、県平和援護・男女参画課は増加の背景として相談窓口の増加や受付時間の延長などの周知・広報効果が表れたとみている。

虐待やいじめ…群像劇に 「きみはいい子」 27日公開 小林裕子

朝日新聞 2015年6月25日

「きみはいい子」の一場面= (C) 2015 アークエンタテインメント



世界で評価が高まる映画界の気鋭、呉美保（オミポ）監督（38）の新作「きみはいい子」が、27日から公開される。幼児虐待、認知症、いじめ、学級崩壊……。問題を抱えた大人と子どもの群像劇に初挑戦。「生半可な気持ちでは描けない」と覚悟を持って臨んだという。

呉監督は、ふるさと三重県伊賀市や名張市でオールロケの「酒井家のしあわせ」（2006年）で長編デビュー。性や暴力を大胆に描いた前作「そのみにて光輝く」で昨年、モンリオール世界映画祭の最優秀監督賞を受けた。



今回の原作は、第28回



坪田譲治文学賞を受けた中脇初枝さんの同名小説。母親と関係をうまく築けずに育ち、3歳の娘に手を上げてしまう雅美（尾野真千子）、子どもたちと向き合えない新米教師の岡野（高良健吾）——。登場人物に様々な社会問題を織り込んだ。

煩わしさこそ尊い 映画「きみはいい子」 呉美保監督 東京新聞 2015年6月25日

昨年のカナダ・モンリオール世界映画祭で「そのみにて光輝く」で最優秀監督賞を受賞した呉美保（オミポ）監督（38）の最新作「きみはいい子」が二十七日に公開される。学級崩壊や虐待、認知症などの問題を抱える人たちがかすかな希望を見だしていくまでの群像劇に挑んだ呉監督の思いに迫った。（増田紗苗）

－映画化に至った経緯は。

映画化の提案をいただいてから原作を読んだが、すごく好きな小説に出会えたと思った。五編の短編小説で、どれも最後に無理のない救いがあるような気がした。その中から三編を選んで一本の物語に。こういう社会問題を扱った作品で初めて（救いを）感じたので、映画化して同じような感覚をいろんな人に味わってもらいたいなど。

－虐待や学級崩壊のシーンがリアル。

小学校の授業風景を見せてもらったり、専門家からお話を聞いたりしたが、必要最低限のこと。それをきちっとやれてこそ描くべき作品だと思いました。

－学級崩壊したクラスを担当する岡野（高良健吾）が「家族に抱き締められてくること」という宿題を出すシーンが印象的。

撮影中、高良さんが子どもたちに対して一生懸命向き合ってくれた。休憩時間もどこも行かずにずっと一緒にいたんですよ。それを見て、実際に（児童役の子たちに）宿題をやってきてもらったら脚本を超えられるというか、自分が想像している以上のものが見られるんじゃないかと。何も答えられずニヤニヤする子や、「きもかった」とはにかむませた感じを見て胸が熱くなった。みんな家族がいるんだなって。

－すてきなシーンです。

でもあのシーンには、岡野の未熟さも描かなきゃいけないと思った。（育児放棄されてい

る男子児童の) 神田さんが来ていない。「ハグっていいよね」という単純で純粋な気持ちで臨んだら、一番傷つけてはいけない子を傷つけた。人生ってそんな単純なものじゃない。きれいに整わない感じを表現したかった。

ーラストで街中に桜が舞います。

最初、それがすごく恐ろしくて。そこまでリアルな現実を描いてきたのに、甘くなるから危険なんじゃないかと。なぜ桜を降らせるのか、最後まで話し合いました。納得して撮りたかったから。

映画の冒頭で、認知症のおばあちゃん(喜多道枝)が岡野に「学校の桜がこんなところまで飛んでくるのよ」と語る場面がある。別の先生がこそと「もう六月なのにね」って。その桜は、花びらが散るとごみが増えるという近所の苦情で切られようとしている。ラストで、おばあちゃんにしか見えていなかったあの桜が見えた瞬間、観客ははっとさせられるだろうし、この映画にとっての喜びや希望だったりするのかなと思ひ至りました。

ー映画を通して伝えたいことは。

ハグとかおせっかいとか、無駄だと思われがちなものも尊いものなんだというのを表現したかった。人と人が関わるってことは煩わしいんだけど、尊いことだし楽しいことなんだって。原作の読後感のように、「明日も頑張ってみようかな」という気持ちになってもらえるとうれしい。

<オ・ミポ> 三重県出身。初めて書いた長編脚本「酒井家のしあわせ」が2005年、「サンダンス・NHK国際映像作家賞/日本部門」を受賞。翌年、同作品で長編映画の監督デビュー。10年に脚本と監督を務めた「オカンの嫁入り」で最も優れた新人監督に贈られる「新藤兼人賞」金賞を受賞。前作「そのみにて光輝く」は一つの家族の崩壊と再生への希望を描いた。先月第1子を出産。

<きみはいい子> 中脇初枝さんの同名小説が原作。まじめだが優柔不断で、学級崩壊していくクラスに何もできない新米教師岡野(高良)、幼いころに虐待され、自分の子どもにも手を上げてしまう母親(尾野真千子)、忍び寄る認知症におびえる一人暮らしの女性(喜多道枝)という同じ町に暮らす三人が、人とのつながりを通して苦悩に向き合い、小さな希望を見だしていく物語。

家庭向け地震保険 平均19%値上げへ

ytv ニュース 2015年6月24日

政府と損害保険各社は、来年から地震保険の保険料を平均19%値上げする方針を固めた。値上げの方針を固めたのは家庭向けの地震保険の保険料で、全国平均で段階的に今より19%値上げすることになる。地震保険の保険料率のあり方について、政府の有識者会議は24日、南海トラフ地震や首都直下地震など、今後の巨大地震の発生リスクなどを検討した結果、値上げの必要があるとの意見をとりまとめた。これにより、金融庁の審査などを経て2017年の1月から地震保険料の値上げが実施される見通し。

地震保険料は去年7月にも全国平均で15.5%値上げされている。損害保険各社などは値上げにあわせて損害の認定区分も被害状況に応じて今よりきめ細かくする方針。

官民ファンド 住宅や福祉、ビルに集約

読売新聞 2015年06月25日

介護施設や保育所、住宅などを一つのビルに集約する複合施設「東京都版CCRC◎」を普及させようと、都は100億円規模の「官民連携福祉貢献インフラファンド」を来年2月に設立し、50億円を出資する。官民ファンドは複合施設を整備する事業者に対し、建設費などを出資・融資する。

民間の有識者会議「日本創成会議」は、2040年に都内で約6万人分の介護施設が不足すると試算し、地方への移住を提唱。これに対し、都は地方へ移住することなく、高齢者から子育て中の家族までが生活できるCCRCの整備を目指している。

米国のCCRCは、同じ敷地内に住居や介護施設などを集約した共同体だが、都内は地

価が高く、用地確保が困難なため、東京都版CCRCは一つのビルに福祉関連施設などを集約する。

都は7月27日までファンドの管理会社を募集し、10月下旬に決定。今年度中に民間事業者への出資や融資をスタートさせるという。

◎CCRC=Continuing Care Retirement Community

国体グッズ、障害者が手作り＝和歌山県

時事通信 2015年6月25日

秋に「紀の国わかやま国体」と全国障害者スポーツ大会の開催が控える和歌山県。マスコットキャラクターの紀州犬「きいちゃん」のグッズの一部は、県内の障害福祉サービス事業所で手作りされている。各事業所の作業風景を紹介するパンフレットも作製。珍しい取り組みという。

パンフレットはJR和歌山駅（和歌山市）の駅ビル内などにあるグッズ売り場「きいちゃんステーション」で配布している。国体の公式サイトからもダウンロードできる。県障害者スポーツ大会課の担当者は「グッズやパンフレットを通じて障害者のことを知ってもらいたい」と話している。

パンフレットは、社会福祉法人やNPOなどが運営する計16の事業所を紹介。きいちゃんがプリントされたボールペンや缶バッジ、クッキーなど手作り商品のほか、通所者らの作業風景、商品作りに込めた思いを説明している。

先の担当者は「大会の一つの目的は、人々に障害への理解を深めてもらうこと」と指摘。「スポーツが得意な障害者には大会に参加してもらえればいいし、そうでない人にもこうしたグッズ作りで関わってもらうことで、より大会の意義を実現できる」と説明している。

躍動する姿、表情見て 障害者主役のミュージカル 大阪日日新聞 2015年6月25日



障害者が主役のミュージカル「大きな古時計」が27日午後2時から、大阪市中央区大手前1丁目のドーンセンターで上演される。歌って、踊って、環境問題の大切さも訴える。生きることの素晴らしさを障害者が全身で表現する舞台。関係者は「彼ら、彼女たちの生き生きした姿を見てほしい」と話している。

生きることの素晴らしさを全身で表現するまんぼうの舞台＝昨年2月、大阪市中央区

公演を行うのはNPO法人まんぼう（大阪市中央区法円坂）。障害者の生活向上や自立支援などに取り組む生活介護事業所を運営しており、

ミュージカルにも事業所の利用者らが出演する。

音楽を聞き、歌いながら踊るミュージカルには、五感を活性化する働きがあるとされ、まんぼうの利用者も、仕事の前の時間を利用して、柔軟体操や歌、ダンスの練習に取り組んでいる。

公演は、日々の活動の成果を多くの人に知ってもらうためのもので、学校や地域のイベントなどにも参加。今回が55回目の公演で、大阪市中央公会堂やNHK大阪ホール、沖縄県や岩手県での単独公演も経験している。

「おおきな古時計」は、ある男の生涯を通じて、命の輝きや生きることの素晴らしさを表現する、まんぼうオリジナルのストーリー。20～50歳の利用者10人をはじめ、一般の支援者約20人もダンサーとして出演する。

事業所近くの公園で清掃活動を行うなど、環境問題にも積極的に取り組んでいる。今回

の舞台でも、ペットボトルやふた、缶ジュースのプルトップなどの廃材を利用した舞台衣装や大道具も使い、資源の大切さを訴える。

まんぼうの西村マコト施設長は「ミュージカルに取り組むことで、みんなが大きく変わった。いろいろなことに積極的になり、笑顔や会話が増えた。今回の舞台でも、それぞれに個性的なメンバーが、生き生きと歌い、踊る姿を見てほしい」と話している。

入場無料だが、満席で入場できない場合がないよう、事前にホームページかメール（n-manbow@sea.plala.or.jp）、ファクス（06-6943-6943）で申し込んでほしいという。

社説：骨太の方針 問題の先送りにすぎぬ

北海道新聞 2015年6月25日

政府は、経済財政運営の基本指針である「骨太の方針」の素案を示した。近く閣議決定する。

財政健全化計画が盛り込まれ、国と地方の政策経費を税収などでまかなえるかどうかを表す基礎的財政収支（プライマリーバランス、PB）を2020年度までに黒字化する目標を堅持した。

そのために、PB赤字の対国内総生産（GDP）比を現在の3.3%から18年度に1%へ縮小する中間目標を掲げ、それまでの3年間を集中改革期間とする。

だが、そもそも名目3%、実質2%の高い経済成長率による税収増をあてにした計画である。

しかも歳出削減の具体策に乏しく、中間目標を検証した後、必要な追加措置をとるという。これでは問題を先送りしたも同然だ。

来年夏に参院選を控え、国民に不人気な歳出カットに踏み込みたくないとの政治的意図が働いたと疑われても仕方あるまい。

素案では、経済成長を重視する安倍晋三政権の意向をくんで、歳出規模についての厳格な数値目標の設定は見送られた。

代わりに、これまでの実績を踏まえ、集中改革期間に、社会保障費も含む政策経費の伸びを合計で1.6兆円に抑えることが「目安」とされている。

ただし、あくまで目安であり、各年度の歳出には柔軟に対応する方針だから、財政規律としての縛りはほとんど期待できない。

歳出削減策としては、価格の安い後発医薬品の使用割合を前倒して引き上げることが目立つ程度で、残りは実効性が疑わしい。

政府は、17年4月に消費税率を10%に引き上げる。景気の腰折れを防ぐ名目で、予算措置を伴う対策が準備される可能性が高い。

景気頼みの財政健全化計画を救うために財政出動が正当化され、中間目標の達成はますます危うくなるだろう。

20年度のPB黒字化は国際公約でもある。集中改革期間に成果を挙げられず、10%を超える消費税増税の検討に追い込まれるような事態は論外だ。

かつて小泉純一郎政権が実施した社会保障費の一律カットといった乱暴な手法も許されない。

素案は、高所得者の年金給付の抑制なども検討課題とした。社会保障と税の一体改革で、国民が納得できる給付と負担の全体像を早急に示す必要がある。

格差解消に向けた資産課税の強化など、歳入面の改革も急がなければならない。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

